

〔古今和歌集秋〕題志らず

わが門にいなおほせどりの鳴なべにけさ吹風にかりはきにけり、

よみ人しらず

〔古今和歌集秋〕これさだのみこの家の歌合のうた

忠岑

山田もる秋のかりいほにをく露はいなおほせどりの涙成けり

〔能宣朝臣集〕九月ゐ中の家のいねをとるにかりする人のまうできたる女ども侍るに、  
かりにて我宿のへにくる人はいなおほせ鳥にあはんとや思ふ

〔大和物語上〕としこちかぬをまちけるよこざりければ、

小夜更ていなおほせ鳥の啼けるを君がたゝくと思ける哉

〔狭衣四中〕お給へる所と見ゆるは寺よりはすこしのきてぞありける。○中軒をあらそふ八重む  
ぐらも、げに人こそみえね、秋のけしきはとく志られぬべかりけり、いなばのかせもみ、ちかく  
はき、ならひ給はぬにいなおほせ鳥さへをとなふも、さまぐにさまかはりたる心ちして物  
心ぼそげなり。

〔新撰六帖二〕いなおほせどり

霜ゑろき朝けの風のさむけきになくや門田のいなおほせどり

〔新續古今和歌集十二〕寶治百首歌に寄鳥戀

家良

逢ふ事はいなおほせ鳥の鳴しより秋風つらき夕暮の空

入道二品親王道助

〔多織編四〕蚊母鳥今云豆豆登利異名吐蚊鳥

蚊母鳥

〔和爾雅六〕蚊母鳥鶴同

〔和漢三才圖會四十〕蚊母鳥 吐蚊鳥 鷦音

本綱蚊母鳥江東多之生池澤茹蘆中大如鷄黑色其聲如人嘔吐每吐出蚊一二升夫蚊乃惡水中蟲